

緊急支援事業実施報告書

申請年月日	2005年 6月 3日	申請番号	2001 -			
プロジェクト名	リベリア人道支援第2期					
実施事業名	グランド・ケープ・マウント州 難民・国内避難民帰還支援事業					
実施団体名	特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン					
実施責任者・連絡先	理事長 峯野雅弘	Tel : +81 3 3367 7252				
日本側担当者・連絡先	海外事業部緊急援助課 ブドウム・カウー 伊藤真理	Tel : +81 3 3367 7252				
現地担当者・連絡先	ブドウム・カウー 中野美穂	Tel : +81 77 550594				
1.事業目的	戦争によって破壊された、難民、国内避難民などの帰還先コミュニティの生活環境、水・衛生インフラを整備することにより、今年10月に控えている国連機関など主導の本格的な難民・避難民の帰還及び再定住を支援、促進する。長じては、コミュニティ復興への基盤をつくることを目的とする。					
2.事業実施期間	2004年9月15日 ~ 2005年3月31日(198日間)					
参考(当初計画期間)	2004年9月15日 ~ 2004年12月14日(3ヶ月間)					
変動事由	現地での事業資機材(セメント)の調達遅延による作業工程調整。					
3.経費執行状況(円)	当初事業費(円)	最終実行額(円)	増減(円)			
現地執行体制運営費	20,506,185円	19,099,664円	1,406,521円			
執行体制設置・運営費	12,709,435円	10,684,774円	1,394,661円			
現地拠点運営費	8,192,750円	7,996,219円	196,531円			
本部経費	234,000円	418,671円	-184,671円			
直接事業費	14,288,693円	28,737,942円	- 60,556円			
外部監査費	718,750円	374,549円	344,201円			
合計	41,042,892円	38,268,556円	2,523,222円			
自己財源	5,529,264円	4,676,486円	852,778円			
JPF財源	35,513,628円	33,843,184円	1,670,444円			
※特記事項	<p>本事業は予算を上回る支出が発生した費目があり、超過支出分に関しては自己資金から拠出することで対応した。予算を上回る支出が発生した理由は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民とのコミュニケーションの結果、当初計画からトイレの仕様を変更したため。 2. 3ヶ月の延長による資材輸送費の超過発生 					
4.最終裨益状況(人)	最終裨益者	37,647人	当初見込数	30,000人	増減	7,647人増
特記事項	<p>当初の基礎調査時には各村の人口に関して概数をとっていたが、事業期間中に詳細な人口調査・世帯調査を行った結果、概算時よりも大きい人数となったため。井戸と各種トイレが敷設された事業地コミュニティでは、井戸の裨益人数がトイレの裨益者を包括するとみなし、井戸受益者数が総裨益者数を代表している。総裨益者のうち少なくとも9,057人はリベリアへの帰還者である。</p>					

事業区分	計画数値				補足事項
	計画数値	変更後計画	実績数値	増減	
井戸修復・設置	30本	-	30本	-	修復14本、建設16本
公共施設内トイレ建設	10棟 40基	-	10棟 40基	-	公共施設内トイレは4基のトイレが1棟の建物に設置されている。
家族用トイレ建設	500棟 500基	469棟 376基	469棟 376基	-	拡大家族(オータ)用トイレは1基以上の便器が一棟の建物に設置されており、便器を敷設する足場が箱型で鉄筋コンクリートで補強されているものと、足場が丸で補強の不必要な縦坑のものに分かれる。
拡大家族(オータ)用トイレ建設	0棟 0基	31棟 124基	31棟 124基	-	

ボバール県とテウオー県において難民及び国内避難民の帰還・定住支援として、定住先のコミュニティにおいて井戸、衛生施設(トイレ)を建設・修復するための資機材を提供し、水・衛生インフラ整備事業を実施した。本事業実施時には、コミュニティや住民自身の事業への積極的な参加を促すことに重点を置き、住民側が労働力や砂や砂利などの資源を提供することで事業を実施したが、それらが入手不可能な地域では提供した。

(1) 井戸修復・設置
支援対象地域の住民が中心となり、事業地のあるボバール県6コミュニティに井戸8本を新設、6コミュニティで井戸7本の修復を行なった。またテウオー県では、8コミュニティで井戸8本を新設、3コミュニティで井戸7本を修復した。

(2) 公共施設内トイレ設置
ボバール県5ヶ所20穴(小学校4、市場1)、テウオー県5ヶ所20穴(小学校1、孤児院1、市場3)に公共施設内トイレを設置した。

(3) 家族用トイレ設置
ボバール県8コミュニティ、テウオー県42コミュニティで、376基分の家族用トイレの資材を、また、ボバール県7コミュニティ、テウオー県7コミュニティで、31棟124穴(96穴の拡大家族(オータ)用トイレと28基分の家族用トイレ)用の資材を配布し、トレーニングを経て住民の参加によって設置を行った。トイレのデザイン自体は各コミュニティで、女性が使用する際の安全性、雨季対策、衛生面などを考慮したうえで決定してもらい実際の設置は、WVの指導のもとコミュニティによって実施した。

5-1 実施事業詳細	—以下の類型ごと実績把握のための特記事項—
5-2	※1.原則4つの類型で整理
※以下概念ごとに整理	※2.同一対象者に複数メニューを実施する場合はそれぞれの内容別個別記載
	※3.実施事業中(1)については、裨益者選定手法別に記載
	※4.// (2)については、設置メニュー別に記載(例:トイレ、シェルター)
	※5.// (3)については、箇所ごとの実績を記載
	※ 6.// (4)については、(1)~(3)と一帯不可分と看做される場合(作業対面の配布等)は、一括記載
(1) 仮設・簡易施設設置	1. 井戸設置
事業実施期間	2004年10月20日~2005年3月20日
総裨益者数、総設置個数	18,500人(根拠:人口調査を各受益コミュニティで行った結果の集計。受益者数=各村の人口。)
	16箇所
ボバール県	Guassay 2,005人 2箇所 Damballa 2,693人 2箇所 Boe-san 1,995人 1箇所 Gbanga 1,499人 1箇所 Magima II 104人 1箇所 Bendeja 2,941人 1箇所
テウオー県	Gbarnai 351人 1箇所 Bumah 598人 1箇所 Kornah 150人 1箇所 Camp 3 1,550人 1箇所 Wonde(Gloria Home) 230人 1箇所 Gbesse 1,586人 1箇所 Gbarwkor 1,100人 1箇所 Kenema 1,698人 1箇所
①設置物仕様	<設置物内容-井戸> 設置前には、①井戸はなく、居住地域から離れた小川の水を飲料水として利用していたため、赤痢やコレラなど水に関連する疾患に感染する危険があったり、②既存の井戸があったとしても井戸数が十分でなく、帰還で増加した住民を支えることができず、常に井戸の周りに水を汲む住民の長い行列が出来る状況であった。このような理由から、安全且つ十分な水量を充足するために、井戸を設置した。 <構成> 井戸1本あたり構成詳細については、別添1-1参照。

<p>②調達実績</p>	<p><調達実績及び活動経過> 新設井戸16本分の資器材調達のため、3者見積もりを取得し、最もふさわしい業者を選定。支払い指示書を準備し、業者より資材を購入するという手続きを踏んで調達を実施した。 調達にかかった期間は10月13日から2月16日までの127日間。 ※ 当初予算計画上の資器材明細別に記載(詳細については、別添1-2参照) <調達過程上での課題及び対処> 乾季の建設ブームのため、セメントやトイレのコンクリート製土台などのセメント製建材への需要が予想以上に上昇した結果、これらの資材の入手が予想以上に困難となり、作業を一旦中断せざるを得ない状況となった。このため、セメントが一般に入手できるようになった12月半ばになって調達を再開した。 <改善点> セメントの供給は依然として不安定であるため、調達が可能な時に時期を逸せず必要量を調達し、一旦モノロピアの倉庫に保管した上で、必要に応じて現場の倉庫に輸送した。</p>																								
<p>③設置箇所選定</p>	<p><設置箇所の選定手法及び活動の経過> 地域のリーダー、コミュニティ福祉委員(CWT)、当該事業実施地域ですでにワールド・ビジョン・リベリアがUNICEFからの資金で運営しているクリニックと連携して、地域住民が参加できる形での選定を行った。 また、UN機関が使用している環境保健・水・衛生施設アセスメント・フォーマットの内容に則して、村の人口、水源、飲料水の状態、トイレの状態、病気の媒体となる害虫・鼠の有無、村の位置・地質状況・生業や学校の施設の状態についての調査結果を、井戸の必要性、帰還予定者数(戦前の人口-現在の人口)や社会的弱者の数、およびワールド・ビジョン宛の嘆願書に基づき検討し、設置箇所を抽出した。 <選定過程上での課題及び対処> (1)書類選定が終わってみると、交通の便のよい場所に立地する村落では、既に当該事業と同様の事業が他団体によって進められていた例もあったり、(2)事業予定地付近で、他団体がコミュニティの自助努力を促進しない非参加型方法(直接工事執行→完成後引渡し)をとったり、資金を支払って同様の工作物の設置を行なっていたりしていたため、当該コミュニティの参加意識が鈍化し、無償労働力提供に難色を示した、などの理由で、施設設置箇所の選定が容易ではなかった。対処としては、(1)UN機関を含め、他団体によって事業が行なわれておらず、道路事情が悪く交通の便の悪い場所に立地する村落に対象を移す、(2)水と衛生施設(トイレ)と自助努力の必要性の説明、(3)コミュニティによる持続性の重要性の説明と啓発活動を行なった。 <改善点> (1)上記の対処(1)に関しては、グランド・ケープ・マウント州における月例事業調整会議に出席しない団体の事業予定を入手して、事業予定地の確保を図る、対処(2)、(3)に関しては、ある程度のセンシタイゼーションをして反応が見られなかったときには、ニーズが高く、コミュニティに事業参加に関する自主性がみられる村落に対象を移すといった努力を行った。</p>																								
<p>④設置行程 ※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。</p>	<p><設置行程及び活動経過> 1-1 井戸1本設置あたりの標準工程</p> <table border="1" data-bbox="454 1064 1212 1344"> <thead> <tr> <th>必要日数・時間数</th> <th>行程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6~7日間(※1)</td> <td>井戸掘削</td> </tr> <tr> <td>2.5日間(※2)</td> <td>暗渠設置</td> </tr> <tr> <td>1~2日間</td> <td>最終掘削(Final Digging)</td> </tr> <tr> <td>3~8時間</td> <td>地下水回復度計測</td> </tr> <tr> <td>2~3時間(採水・移動時間を除く)</td> <td>水質検査</td> </tr> <tr> <td>1.5~2時間(乾薬時間を除く)</td> <td>井戸上部製作</td> </tr> <tr> <td>1.5時間(乾薬時間を除く)</td> <td>井戸上部設置</td> </tr> <tr> <td>1~2日間(乾薬時間を除く)</td> <td>Apron設置</td> </tr> <tr> <td>3~4時間</td> <td>ポンプ上部設置</td> </tr> <tr> <td>1日</td> <td>井戸の殺菌</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13日~15日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 地質により掘削に必要な期間は異なる。 (※2) 井戸の深さによる。</p> <p>1-2 実施方法 ニーズ調査実施後、当事業の主旨についてコミュニティ・リーダーや住民に説明を行ない、井戸の必要性を理解し、労力や資材の自主的提供が確認された村落で事業を実施した(立地状況で資材が提供できない村落も含む)。WVは井戸の掘削前に道具を配布し、事業を通してコミュニティは労力や井戸設置に必要な資材(砂、砂利)を提供した。フィールド・モニター立会いの元で、コミュニティ、CWTが井戸掘削を行なった。暗渠設置、最終掘削、地下水回復度計測、井戸上部、エプロン、ポンプ上部設置、井戸の殺菌は技術指導者であるフィールド・モニターが実施した。設置作業と並行して、本事業の保健普及員が衛生教育(水・衛生/WATSAN施設の衛生的な使用の必要性など)を行った。また、コミュニティの人材育成のため、コミュニティ福祉委員(CWT)に対して井戸設置技術や保健衛生の知識などについて実地トレーニングを実施した。事業終了後に継続して設置した井戸を管理し(スペアパーツは提供済み)、コミュニティへの衛生啓発活動を行なう目的で、井戸を設置・修復した地域でWAT・SAN管理委員会や井戸コミュニティ保健委員(CHT)がコミュニティより選ばれた。</p>	必要日数・時間数	行程	6~7日間(※1)	井戸掘削	2.5日間(※2)	暗渠設置	1~2日間	最終掘削(Final Digging)	3~8時間	地下水回復度計測	2~3時間(採水・移動時間を除く)	水質検査	1.5~2時間(乾薬時間を除く)	井戸上部製作	1.5時間(乾薬時間を除く)	井戸上部設置	1~2日間(乾薬時間を除く)	Apron設置	3~4時間	ポンプ上部設置	1日	井戸の殺菌	合計	13日~15日間
必要日数・時間数	行程																								
6~7日間(※1)	井戸掘削																								
2.5日間(※2)	暗渠設置																								
1~2日間	最終掘削(Final Digging)																								
3~8時間	地下水回復度計測																								
2~3時間(採水・移動時間を除く)	水質検査																								
1.5~2時間(乾薬時間を除く)	井戸上部製作																								
1.5時間(乾薬時間を除く)	井戸上部設置																								
1~2日間(乾薬時間を除く)	Apron設置																								
3~4時間	ポンプ上部設置																								
1日	井戸の殺菌																								
合計	13日~15日間																								

④設置行程

※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。

2. 期間中の規模展開に係る計画
一ア、設置計画及び設置

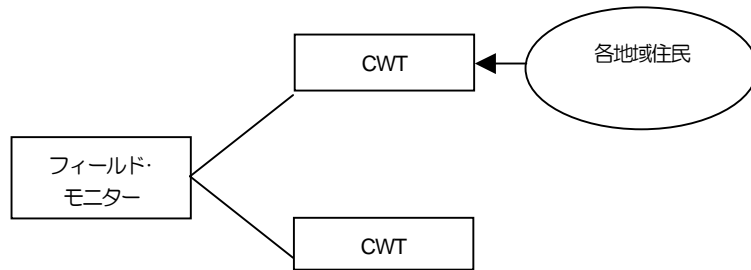
当初計画では、3ヶ月間という事業期間を鑑み、各設置箇所では、掘削初日にフィールド・モニターでWATSAN技術所有者がCWT1人、コミュニティの受益者に対してOJTを行なった後、1日おきに3カ所で並行して掘削を開始し、1井戸を1週間で終える計画をしていた。

しかし、設置時期が農繁期と重なったこと等が原因で、OJTで技術移転できた受益者が数少ないため、フィールド・モニター自身が各地域での設置開始日数をずらしながら巡回させる方法をとらざるをえなかった。農繁期中、受益者が実際に労力を避けなくなり作業が停滞したことや、1箇所の調達・作業の遅延が全体の作業遅延につながった。そのため1基あたりの標準作業期間が上記の表に示されているとおり、倍の長さとなった。(3ヶ月の延長申請を行っている。)

一イ、期間中の展開日数(10月20日着手、11月1日最終着手、3月20日全設置完了日
(正味設置期間150日))

3. 業務従事形態

フィールド・モニターの指示・監督の下、CWTが各コミュニティで地域住民のリーダーシップを取って設置事業にあたった。



① 直接工事人役の確保の状況

支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT12人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニター9人(WATSANテクニシャン、ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。

*資材調達に手間取り事業開始が遅れたため、フィールド・モニター数を当初(11月、12月)増員(予算措置数8人⇒雇用数16人)したが、延長期間に再契約を交わさなかったスタッフがあり、最終的には9人となった。

② JPF 予算措置人役の関係

まずフィールド・モニター(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンシタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニター(WATSANテクニシャン)が、CWTに対して実地トレーニングを行いながら、井戸設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。

③ 連携先 NGO 等の関与のしくみ

ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)は、井戸設置用資材調達やトラック・レンタルなどのロジ手配のサポートを行なった。

<活動上の課題及び対処>

(1) 支援対象地域の中には井戸の最終掘削(掘削最終段階の仕上げで技術を要し、危険を伴う)経験者がおらず、CWTに実地トレーニングを行ないながら、フィールド・モニターが交替で最終掘削にあたったため、井戸設置に大変時間を要した。

(2) WATSAN修復用道具を常時5~7基の井戸とトイレの建設および修復作業で使いまわして利用していたため(例:一箇所につき:土、水汲み出し用/ケツは各井戸3ケ、一輪車1台、ショベル2本、左官用コテ1本など)、一箇所での井戸設置作業の遅れが別の場所での作業進捗に影響を与えた。

対処としては、(1)OJTを通して最終掘削が出来るようになったCWTが最終掘削作業にあたり、その間、別の地域でフィールド・モニターが井戸設置にあたった、(2)当初は、事業地への交通の便が悪いため、一度搬入したWATSAN修復道具は、作業一時中断でも全工程が終わるまでは一定の事業地に保管していた。しかし、それでは工期中に全工程が終了することが困難になったため、作業中断になった事業地からほかの事業地へできるだけ早く回した。また、左官用コテなどは受益者から借りるなどして対処した。

<改善点>

対処(1)については、OJTで最終掘削が出来るようになったCWTを作業が終わっていない支援対象村に戦略的に配置した。対処(2)については井戸設置作業を並行して行なっていくために、各井戸にWATSAN修復道具を配置し、別の場所での作業進捗に影響を与えないようにした。

⑤連携実績	団体名称	連携実績(上記①~③のどの過程で関与があるのか具体的に)
現地NGO	WVL	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)
現地政府	土地・鉱物資源・エネルギー省	井戸の水質検査やWATSANの技術的な助言(③)
国際機関	UNICEF	WATSANの技術的な助言(③)
補足資料について	別紙1 活動箇所特定の地図を添付 別紙2 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、作業中〜完成後がわかるもの) 別紙3 その他補足資料	

(2) 仮設・簡易施設設置		2. 公共施設内トイレ			
事業実施期間		2004年11月8日～2005年3月5日			
総裨益者数、総設置個数		2,536人(根拠:学校・市場の利用者人数調査の集計結果による)		10箇所(40穴)	
	ボバ県 Boe-san Bendeja Gbarnga Bamballa Mano Gleh	Varney Kekula Elementary School St. Phillip's Episcopal School Siaffa Dugbah Public School Bamballa Market (※1) Mano Gleh Public School	155人 214人 181人 125人 247人	1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴)	(※1) Bamballa 市場組合組合員の人数。大多数の受益者は市場での販売者、買い物客で、ボバ県各地から訪れると推測されるが、正確な数値を把握していないため、組合員数のみ記載した。
	テウオー県 Wonde Tienii Weilor Gbarwkor Bo-waterside	Gloria Children's Home (Tienii) Tienii Market (※2) Weilor Junction Market (※3) Gbarwkor Public School Bo-waterside Market (※4)	78人 50人 325人 211人 950人	1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴) 1箇所(4穴)	(※2, 3, 4) Tienii, Weilor, Gbarwkor 市場組合組合員の人数。大多数の受益者は市場での販売者、買い物客で、テウオー県各地から訪れると推測されるが、正確な数値を把握していないため、組合員数のみ記載した。
①設置物仕様		<p><設置物内容-公共施設内トイレ> 設置前には、①トイレがないため付近の糞で用を足していた、或いは、②既存のトイレが一杯になり使用できず、①と同様に付近の糞で用を足していた。このため、学校周辺や市場周辺の環境を衛生的に保つことによって、汚物混入が原因の病気の蔓延を防ぐ意味で不可欠であるため、公共施設内トイレを設置した。</p> <p><諸元> 建造物の大きさ:縦6フィート、横:15フィート、高さ:建物前部7フィート、建物後部6フィート トイレの穴の大きさ:縦3フィート×横12フィート×深さ10フィート</p> <p><構成> なお、構成詳細については、別添2-1参照。</p>			
②調達実績 (最終購入物はセメント)		<p><調達実績及び活動経過> 公共施設内トイレ10棟分の資材調達のため、3者見積もりを取得し、業者選定を行った。 最も適切な業者を選定した後、支払い指示書を準備し、業者より資材を購入する方法で調達を行った。 2004年10月19日から開始し、2005年2月5日までの109日間で調達を実施した。 ※ 当初予算計画上の資器材目録別に記載(詳細については、別添2-2参照)</p> <p><調達過程上での課題及び対処> 乾季の建設ブームのため、セメントやトイレのコンクリート製土台などのセメント製建材への需要が予想以上に上昇した結果、これらの資材の入手が予想以上に困難となり、作業を一旦中断せざるを得ない状況となった。このため、セメントが市場で入手できるようになった12月半ばになって調達が再開した。</p> <p><改善点> セメントの供給は依然として不安定であるため、市場での調達が可能な時に時期を逸せずに必要な量を調達し、一旦モンロビアの倉庫に保管した上で、必要に応じて現場の倉庫に輸送した。</p>			
③設置箇所選定		<p><設置箇所の選定手法及び活動の経過> 地域のリーダー、コミュニティ福祉委員(CWT)、当該事業実施地域ですでにワールド・ビジョン・リベリアがUNICEFからの資金で運営しているクリニックと連携して、地或住民が参加できる形での選定を行った。 UN機関が使用している環境保健・水・衛生施設アセスメント・フォーマットの内容に則して、村の人口、水源、飲料水の状況、トイレの状況、病気の媒体となる害虫・鼠の有無、村の位置・地質状況・生業や学校の施設の状況についての調査結果を、井戸の必要性、帰還予定者数(戦前の人口-現在の人口)や社会的弱者の数、およびワールド・ビジョン宛の嘆願書に基づき検討し、設置箇所を抽出した。</p> <p><選定過程上での課題及び対処> (1) 交通の便のよい場所に立地する村落では、既に当該事業と同様の事業が他団体によって進められていた、 (2) 他団体がコミュニティの自助努力を促進しない非参加型方法(直接工事執行→完成後引渡し)をとったり、資金を支払って同様の工作物の設置を行っていたりしていたため、コミュニティの参加意識が鈍化しており、無償労働力提供に難色を示した、 (3) 地元で入手できる建材の提供や使用に同意しない、などの理由で、施設設置箇所の選定が容易ではなかった 対処としては、(1)何の事業も行なわれていない、道路事情が悪く交通の便の悪い場所に立地する村落に対象を移す、(2)水と衛生施設(トイレ)と自助努力の必要性の説明、(3)持続性の重要性の説明と啓発活動を行なった。</p> <p><改善点> (1)上記、対処(1)に関しては、グランド・ケープ・マウント州における月例事業調整会議に出席しない団体の事業予定を入手して、事業予定地の事前選定を徹底させる、対処(2)、(3)に関しては、ある程度のセンシタイゼーションをして反応が見られなかったときには、ニーズが高く、コミュニティに事業参加に関する自主性がみられる村落に対象を移すといった努力を行った。</p>			

④設置行程 ※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。	<p><設置行程及び活動経過></p> <p>1-1. 公共施設内トイレ1棟設置あたりの標準工程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要日数・時間数</th> <th>行程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3~5日間(※1)</td> <td>トイレ掘削</td> </tr> <tr> <td>2日間</td> <td>基礎工事</td> </tr> <tr> <td>3日間</td> <td>鉄筋コンクリート製土台設置</td> </tr> <tr> <td>1.5~2日間</td> <td>壁積み上げ</td> </tr> <tr> <td>1日</td> <td>屋根設置</td> </tr> <tr> <td>0.5~1日</td> <td>ドア設置</td> </tr> <tr> <td>1日</td> <td>外壁水しっくい塗り</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12日~15日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 地質により掘削に必要な期間は異なる。</p> <p>1-2. 実施方法</p> <p>JPF 事業の主旨についてコミュニティ・リーダーや住民に説明を行い、トイレ設置の必要性を理解し、労力や資材の自主的提供が確認された村落で事業を実施した(立地状況で資材が提供できない村落も含む)。コミュニティは労力やトイレ設置に必要な資材(砂、砂利、壁建材)を提供した。コミュニティ、CWT がトイレの穴掘りをし、フィールド・モニター5人がCWT へのOJT をしながら、基礎工事、コンクリート製土台設置、壁積み上げ、屋根設置、ドア設置、外壁水しっくい塗りなど、実際の設置の監督を行なった。また設置作業と並行して、本事業の保健普及員が衛生教育(水・衛生/WATSAN 施設の衛生的な使用の必要性など)を行った。また、コミュニティの人材育成のため、コミュニティ福祉委員(CWT)に対してコンクリート製足踏み台の製作や保健衛生の知識などについて実地トレーニングを実施した。コミュニティへの衛生啓発活動を継続的に行なう目的で、コミュニティ保健委員(CHT) がコミュニティより選ばれた。</p> <p>2. 期間中の規模展開に係る計画</p> <p>一ア、設置計画及び設置</p> <p>当初計画は1棟あたり10日程度で設置する予定であったが、セメントの調達が遅れたため、事業開始が遅れると同時に実績標準設置日数にも遅れがでる結果となった。</p> <p>一イ、期間中の展開日数(2004年11月10日着手、2005年2月6日最終着手、2005年2月14日全設置完了日(正味設置期間97日))</p> <p>3. 業務従事形態(請負か直接執行かわかるように記載)</p> <p>① 直接工事人役の確保の状況</p> <p>支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT12人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニター8人(WATSAN テクニシャン、ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。</p> <p>② JPF 予算措置人役の関係</p> <p>まずフィールド・モニター(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンシタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニター(WATSAN テクニシャン)が、CWT に対して実地トレーニングを行いながら、トイレの設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。</p> <p>③ 連携先 NGO 等の関与のしくみ</p> <p>ワールド・ビジョン・リベリアは、公共施設内トイレ設置用資材調達やトラック・レンタルなどのロジ手配のサポートを行なった。</p> <p><活動上の課題及び対応></p> <p>必要な資機材のうち、セメントやトイレのコンクリート製土台などのセメント製建材が一時的に品薄になり、作業を一時的に停止せざるをえない事態が生じた。そのため、12月の第2週に入って市場でセメントが入手できるようになるまで、作業を中断した。</p> <p><改善点></p> <p>品薄になる可能性の高い資材(セメントなど)は、市場での調達が可能な時に時期を逸せず必要量を調達し、一旦WVL モンロピア倉庫に保管した上で、必要に応じて現場の倉庫に輸送し、作業が滞らないようにする。</p>		必要日数・時間数	行程	3~5日間(※1)	トイレ掘削	2日間	基礎工事	3日間	鉄筋コンクリート製土台設置	1.5~2日間	壁積み上げ	1日	屋根設置	0.5~1日	ドア設置	1日	外壁水しっくい塗り	合計	12日~15日間
	必要日数・時間数	行程																		
3~5日間(※1)	トイレ掘削																			
2日間	基礎工事																			
3日間	鉄筋コンクリート製土台設置																			
1.5~2日間	壁積み上げ																			
1日	屋根設置																			
0.5~1日	ドア設置																			
1日	外壁水しっくい塗り																			
合計	12日~15日間																			
⑤連携実績	団体名称	連携実績(上記①~③のどの過程で関与があるのか具体的に)																		
現地 NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WVL)	資材調達(②)、トラック・レンタルなどのロジ手配(②)																		
現地行政府	土地・鉱物資源・エネルギー省	WATSAN の技術的な助言(③)																		
国際機関	UNICEF	WATSAN の技術的な助言(③)																		
補足資料について	別紙1 活動箇所特定の地図を添付(必須) 別紙2 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、作業中一完成後がわかるもの) 別紙3 その他補足資料																			

(3) 仮設・簡易施設設置	3-1. 家族用トイレ(拡大家族用、家族用)
事業実施期間	2004年10月28日~2005年3月31日
総裨益者数、総設置個数	5,582人(ボイ県2,320人、テウォー県3,262人)(根拠:各受益コミュニティで家族ごとの世帯人数調査を行った結果の集計。)(地域別の受益者数は別添参照)
①設置物仕様	<p><設置物内容一家族用トイレ></p> <p>設置前には、①トイレがないため付近の糞で用を足していた、或いは②既存のトイレが一杯になり使用できず、①と同様に付近の糞で用を足していた。このため、家屋周辺の環境を衛生的に保つことによって汚物混入が原因の病気の蔓延を防ぐ意味で不可欠であるため、家族用トイレを設置した。</p> <p><諸元></p> <p>拡大家族用トイレ:トイレの穴の大きさ:縦3フィート×横12フィート×深さ10フィート 家族用トイレ:トイレの直径2.5~3フィート、深さ4~7フィート</p> <p><構成></p> <p>なお、構成詳細については、別添3-1参照。</p>

<p>②調達実績</p>	<p><調達実績及び活動経過> 家族用トイレの資材調達のため、3者見積りを取り得た。最も適切な業者を選定した後、支払い指示書を準備し、納入業者から資材を購入する方法で調達をおこなった。 2004年10月28日から、2005年3月25日までの148日間で調達を実施した。 (不足していたドアと蝶つかいの追加購入が最後) ※ 当初予算計画上の資器材明細別に記載(詳細については、別添3-2参照) <調達過程上での課題及び対処> 乾季の建設ブームのため、セメントやトイレのコンクリート製土台などのセメント製建材への需要が予想以上に上昇した結果、これらの資材の入手が予想以上に困難となり、作業を一旦中断せざるを得ない状況であった。このため、セメントが市場で入手できるようになった12月半ばになって調達を再開した。 <改善点> セメントの供給は依然として不安定であるため、市場での調達が可能な時に時期を逸せず必要量を調達し、一旦WVLモンロピア倉庫に保管した上で、必要に応じて現場の倉庫に輸送した。</p>
<p>③設置箇所選定</p>	<p><設置箇所の選定手法及び活動の経過> 地域のリーダー、コミュニティ福祉委員(CWT)、当該事業実施地域ですでにワールド・ビジョン・リベリア運営しているクリニックと連携して、地域住民が参加できる形での選定を行った。 UN機関が使用している環境保健・水・衛生施設アセスメント・フォーマットの内容に則して、村の人口、水源、飲料水の状況、トイレの状況、病気の媒体となる害虫・鼠の有無、村の位置・地質状況・生業や学校の施設の状況についての調査結果を、井戸の必要性、帰還予定者数(単独の人口-現在の人口)や社会的弱者の数、およびワールド・ビジョン宛の嘆願書に基づき検討し、設置箇所を抽出した。 <選定過程上での課題及び対処> (1) 交通の便のよい場所に立地する村落では、既に当該事業と同様の事業が他団体によって進められていた、 (2) 他団体がコミュニティの自助努力を促進しない非参加型方法(直接工事執行→完成後引渡し)をとったり、賃金を支払って同様の工作物の設置を行っていたりしていたため、コミュニティの参加意識が鈍化しており、無償労働力提供に難色を示した、 (3) 地元で入手できる建材の提供や使用に同意しない、などの理由で、施設設置箇所の選定が容易ではなかった。 対処としては、(1)何の事業も行なわれていない、道路事情が悪く交通の便の悪い場所に立地する村落に対象を移す、(2)水と衛生施設(トイレ)と自助努力の必要性の説明、(3)持続性の重要さの説明と啓発活動を行なった。 <改善点> (1)上記、対処(1)に関しては、グランド・ケープ・マウント州における月例事業調整会議に出席しない団体の事業予定を入手して、事業予定地の事前選定を徹底させる、対処(2)、(3)に関しては、ある程度のセンシタイゼーションをして反応が見られなかったときには、ニーズが高く、コミュニティに事業参加に関する自主性がみられる村落を対象を移すといった努力を行った。</p>

④設置行程

※予算措置人役の関与を明確にするよう記述。

<設置行程及び活動経過>

1-1. 拡大家族用トイレ1棟設置あたりの標準工程

必要日数・時間数	行程
3~5日間(※1)	トイレ掘削
1日間	基礎工事
2~3日	鉄筋コンクリート製土台設置
3~7日間	壁骨組み、土壁作り
1日	屋根設置
0.5~1日	ドア設置
合計	11日~18日間

(※1) 地質により掘削に必要な期間は異なる。

1-1-2. 家族用トイレ1基設置あたりの標準工程

必要日数・時間数	行程
2~3日間(※1)	トイレ掘削
1.5時間	コンクリート製足踏み台(Dome slab)製作
2~3日間	壁骨組み、土壁作り
3~6時間	屋根設置
0.5日	ドア設置
合計	5日~7日間

※1) 地質により掘削に必要な期間は異なる。

1-2. 実施方法

ニーズ調査実施後、当事業の主旨についてコミュニティ・リーダーや住民に説明を行ない、トイレ設置の必要性を理解し、労力や資材の自主的提供が確認された村落で事業を実施した(立地状況等でコミュニティが資材が提供できない村落も含む)。WVはトイレの掘削前に道具を配布し、掘削終了を確認してから資材(トタン、釘、コンクリート製足踏み台、扉など)を配布した。受益世帯は労力やトイレ設置に必要な資材(砂、砂利)を提供した。

フィールド・モニターの指導のもとで、コミュニティとCWTがトイレの穴掘り、基礎工事を行ない、コンクリート製土台設置、壁骨組み作り、屋根設置、ドア設置はコミュニティが行なった。フィールド・モニターは定期的に設置状況を確認した。設置作業と並行して、本事業の保健普及員が衛生教育(WATSAN施設の衛生的な使用の必要性など)を行った。また、コミュニティの人材育成のため、コミュニティ福祉委員(CWT)に対してコンクリート製足踏み台の製作や保健衛生の知識などについて実地トレーニングを実施した。コミュニティへの衛生啓発活動を継続的に行なう目的で、コミュニティ保健委員(CHT)がコミュニティを通じて選出された。

2. 期間中の規模展開に係る計画

一ア、設置計画及び設置

当初、1日当り20穴、6日間で120穴掘削する予定であったが、セメント素材の調達と受益者の協力が不安定だったために大幅に作業が遅延する結果となった。

一イ、期間中の展開日数(11月10日着手、2月21日最終着手、月日全設置完了日

(正味設置期間141日)

3. 業務従事形態(請負か直接執行かわかるように記載)

① 直接工事人役の確保の状況

支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT12人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニター8人(WATSANテクニシャン、ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。

③ JPF 予算措置人役の関与

まずフィールド・モニター(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンシタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニター(WATSANテクニシャン)が、CWTに対して実地トレーニングを行ないながら、井戸設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。

③ 連携先 NGO 等の関与のしくみ

ワールド・ビジョン・リベリアは、家族用トイレ設置用資材調達やトラック・レンタルなどのロジ手配を行なった。

<活動上の課題及び対処>

- (1) 必要な資機材のうち、セメントやトイレのコンクリート製土台などのセメント製建材が一時的に品薄になり、作業を一時的に停止せざるをえない事態が生じた。
- (2) 事業着手後に住民と話し合いをした上で家庭用トイレの屋根は民家と同じく地元で入手可能な資材を調達し設置することにしてしたが、家庭用及び拡大家族用トイレの掘削を開始した事業半ばになって、事業地近隣のコミュニティにおいて他 NGO がトイレにトタン屋根を使用するようになった。この影響を受けて、WV に対して事業地の受益世帯の住民や県知事から地元で入手可能な屋根素材からトタンへの変更依頼があった。
- (3) 本事業後期より農繁期が始まり、家族用トイレ(拡大家族用・家族用)の受益世帯のトイレ設置作業が鈍化した。
- (4) WATSAN施設の修復用道具を常時5~7基の井戸とトイレの建設および修復作業で使いまわして利用していたため(例:土、水汲み出し用バケツは各井戸3ヶ、一輪車1台、ショベル2本、左官用コテ1本など)、一箇所での井戸設置作業の遅れが別の場所での作業進捗に影響を与えた。

対処としては、(1)セメントが市場で入手できるようになった12月半ばになるまで、作業を一旦停止した、(2)住民と話し合いの場を持ち、トイレを巡る地域間の係争を防ぐために、家庭用トイレ(拡大家族用、家族用)の屋根にトタンを使うことにした(トタンの購入は自己財源で対応)、(3)住民の9割以上がイスラム教徒で金曜日は農作業に従事しないため、金曜日一日をトイレ設置作業に充てるようにセンシタイゼーションを行なった、(4)当初は、事業地への交通の便が悪いため一度搬入したWATSAN修復道具は作業一時中断中も全工程が終わるまでは一定の事業地におきっぱなしにしていた。しかし、それでは工期中に全工程が終了することが困難になったため、作業中断になった事業地からほかの事業地へできるだけ早く回した。また、左官用コテなどは受益者から借りるなどした。<改善点>

上記対処(1)については、調達実績改善点参照のこと。(2)については、コミュニティの住民とは、これまで以上に話し合いの場を設けるとともに、自助努力の必要性についても継続して説明を行なう。(3)支援対象地域の住民が、設置する水、衛生施設を所有者意識をもって、衛生的に長期にわたって使用していくことが出来るように、住民に対してセンシタイゼーションやトレーニングを行なう。(4)については、トイレ設置作業を並行して行なっていくためには、各トイレにWATSAN施設の修復道具を配置し、別の場所での作業進捗に影響を与えないようにした。

⑤連携実績	団体名称	連携実績(上記①～③のどの過程で関与があるのか具体的に)
現地NGO	ワールド・ビジョン・リベリア(WWL)	資材調達 (②)、トラック・レンタルなどのロジ手配 (②)
現地行政府	土地・鉱物資源・エネルギー省	WATSANの技術的な助言 (③)
国際機関	UNICEF	WATSANの技術的な助言 (③)
補足資料について	別紙1 活動箇所特定の地図を添付 (必須) 別紙2 活動行程を特定する写真 (①～④の行程がわかるもの。特に設置については、作業中—完成後がわかるもの) 別紙3 その他補足資料	

(4) 施設応急修復	井戸修復		
対象施設群選定方針	井戸修復事業実施地域は、難民・国内避難民の帰還に伴う人口が増加しているが、既存の井戸がポンプ・ヘッドなどの故障または内戦中の略奪などにより機能せず、住民は集落より離れた小川などを飲料水として使用していた。このため、赤痢やコレラなど水に関連する疾患にかかる住民が多く、安全且つ十分な水量を充足するために井戸の修復をすることとなった。		
	施設箇所数	裨益者状況	備考
修復施設数計	井戸 14 箇所	15,996 人	人口調査を各受益コミュニティで行った結果の集計。受益者数-各村の人口。
ポバ県 Bambala	1 箇所	2,250 人	同上
Bobah Junction	1 箇所	295 人	同上
Mano Gleh	1 箇所	2,990 人	同上
Gbojima	1 箇所	482 人	同上
Baaka	2 箇所	355 人	同上
Gbanga	1 箇所	1,499 人	同上
テウォー県 Tieni	2 箇所	3,150 人	同上
Bo-waterside	3 箇所	4,621 人	同上
Sanjaynama	2 箇所	354 人	同上
事業実施手法	<p><事業実施のための作業形態></p> <p>① 直接作業人役の確保の状況(直接雇用、業務委託の状況) 支援対象地域の住民(ボランティア)、CWT12人(事業終了時に謝金)、フィールド・モニター9人(WATSANテクニシャン、ソーシャル・ワーカー/直接雇用)、保健普及員2人(直接雇用)。</p> <p>② 個別資器材の調達実態(直接調達、業務委託の状況) 新規井戸14本分に相当するの資器材調達は直接調達を行なった。</p> <p>③ 上記①、②に係るJPF予算措置人役の関与について 上記①では、まずフィールド・モニター(ソーシャル・ワーカー)がコミュニティに対してセンタイゼーションを行った。その後、フィールド・モニター(WATSANテクニシャン)が、コミュニティやCWTに対して実地トレーニングを行ないながら、機能しなくなったポンプ・ヘッドやベースを外し、排水・井戸内部の清浄、暗渠の設置、Apronの設置、井戸上部、ポンプ上部の設置を行なった。修復作業と並行して保健普及員による衛生教育も行なった。②については、本事業ロジ担当が、WWLの協力を受けて資材を調達し、現地へ輸送した。</p> <p><活動上の課題及び対処> 井戸設置を参照のこと。</p> <p><改善点> 井戸設置を参照のこと。</p>		
連携実績	団体名称	事業執行上のどの工程で関与しているのか具体的に	
現地NGO	WWL	資材調達 (②)、トラック・レンタルなどのロジ手配 (②)	
現地行政府	土地・鉱物資源・エネルギー省	井戸の水質検査やWATSANの技術的な助言 (③)	
国際機関	UNICEF	WATSANの技術的な助言 (③)	
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	ポバ県 Barbala 井戸	2,250 人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸2本が帰還民で増加する住民を支えきれない影響が生じていた。		
④対象修復等内容	壊れたポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを取り外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apronの設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ら時間短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月7日-2月21日(14日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真 (①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前—作業中—完成後がわかるもの)		
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	Junction Home 井戸	295 人	根拠：第2期終了時の調査結果による

①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より5分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で目つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月7日-2月21日(14日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前-作業中-完成後がわかるもの)		
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	Mano Gleh 井戸	2,990 人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプ・ヘッドが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプ・ヘッドの故障で、住民が集落より7分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	故障したポンプ・ヘッドの交換をした。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で目つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月14日-2月28日(15日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前-作業中-完成後がわかるもの)		
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	Gbojima 井戸	482 人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプ・ヘッドが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプ・ヘッドの故障で、住民が集落より6分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	故障したポンプ・ヘッドの交換をした。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で目つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月21日-3月7日(15日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前-作業中-完成後がわかるもの)		
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	Baa-ka 井戸	177 人	根拠：第2期終了時の各村人口調査結果による。Baa-ka 村の人口が355人のため、2基の井戸設置による1基あたりの裨益者数は177人となる。
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より8分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で目つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月12日-2月21日(9日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前-作業中-完成後がわかるもの)		
	施設名	裨益者実績	
-1 対象施設名	Baa-ka 井戸	178 人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、住民が集落より8分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。		

④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	12月6日～1月8日(34日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)		
	施設名		裨益者実績
ー1 対象施設名	Gbanga 井戸	1499人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸1本が帰還民で増加する住民を支えきれない影響が生じていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	11月15日～3月8日(114日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)		
	施設名		裨益者実績
ー1 対象施設名	Tieni (Moor Quarter) 井戸	1,575人	根拠：第2期終了時の各村人口調査結果による。Tieni 村の人口が3150人のため、2基の井戸設置による1基あたりの裨益者数は約1,575人となる。
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸2本が帰還民で増加する住民を支えきれず、井戸に長い列ができる影響が生じていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月14日～3月13日(28日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)		
	施設名		裨益者実績
ー1 対象施設名	Tieni 井戸	1,575人	根拠：第2期終了時の調査結果による
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸2本が帰還民で増加する住民を支えきれず、井戸に長い列ができる影響が生じていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		
特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。		
⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)		
⑥工期	2月14日～3月13日(28日間)		
⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)		
	施設名		裨益者実績
ー1 対象施設名	Bo-waterside (Kpakala) 井戸	約1,540人	根拠：第2期終了時の各村人口調査結果による。Bo-waterside 村の人口が4,621人のため、3基の井戸設置による1基あたりの裨益者数は約1,540人となる。
①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。		
②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。		
③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸が帰還民で増加する住民を支えきれず、特に乾季の間に井戸に長い列ができる影響が生じていた。		
④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。		

	特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。	
	⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)	
	⑥工期	2月14日～2月28日(15日間)	
	⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)	
		施設名	裨益者実績
-1	対象施設名	Bo-waterside (Passawe Quarter)井戸	約1,540人 根拠：第2期終了時の調査結果による
	①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。	
	②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。	
	③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸が帰還民で増加する住民を支えきれず、特に乾季の間に井戸に長い列ができる影響が生じていた。	
	④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。	
	特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。	
	⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)	
	⑥工期	2月14日～2月28日(15日間)	
	⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)	
		施設名	裨益者実績
-1	対象施設名	Bo-waterside (UNMIL Quarter)井戸	約1,540人 根拠：第2期終了時の調査結果による
	①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。	
	②損壊状況	ポンプが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。	
	③損壊による影響	ポンプの故障で、当該地域に既存の井戸が帰還民で増加する住民を支えきれず、特に乾季の間に井戸に長い列ができる影響が生じていた。	
	④対象修復等内容	ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドを外し、排水、井戸内部の清浄、暗渠設置、Apron の設置、ポンプ・ベースやポンプ・ヘッドの設置を行なった。	
	特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が井戸の周りに並ぶ時間が短くなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。	
	⑤直接事業費	執行経費：126,644 円(左官道具等共通経費除く。)	
	⑥工期	2月14日～3月7日(22日間)	
	⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)	
		施設名	裨益者実績
-1	対象施設名	Sanjanyama 井戸	177人 根拠：第2期終了時の調査結果による。Sanjanyama の人口が354人のため、2基の井戸設置による1基あたりの裨益者数は約177人とみなす。
	①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。	
	②損壊状況	ポンプ・ヘッドが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。	
	③損壊による影響	ポンプ・ヘッドの故障で、住民が集落より8分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。	
	④対象修復等内容	故障したポンプ・ヘッドの交換をした。	
	特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。	
	⑤直接事業費	執行経費：93,404 円(左官道具等共通経費除く。)	
	⑥工期	2月14日～3月8日(23日間)	
	⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①～④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前～作業中～完成後がわかるもの)	
-1	対象施設名	Sanjanyama 井戸	177人 根拠：第2期終了時の調査結果による。Sanjanyama の人口が354人のため、2基の井戸設置による1基あたりの裨益者数は約177人とみなす。
	①施設概要	対象村落の住民に対して安全で十分な水を供給する。	
	②損壊状況	ポンプ・ヘッドが故障しており住民が井戸を使用できない状況であった。	
	③損壊による影響	ポンプ・ヘッドの故障で、住民が集落より8分離れた小川へ水汲みに行っており、水により伝染する病気に罹患者ができるような影響が出ていた。	
	④対象修復等内容	故障したポンプ・ヘッドの交換をした。	
	特定理由	上記修復実施により対象村落の住民が小川へ水汲みに行く必要がなくなり、安全で且つ十分な水へのアクセスが可能となるため。	
	⑤直接事業費	執行経費：93,404 円(左官道具等共通経費除く。)	
	⑥工期	2月14日～3月8日(23日間)	

⑦補足資料	別紙1 活動行程を特定する写真(①~④の行程がわかるもの。特に設置については、執行前・作業中・完成後がわかるもの)
補足資料について	別紙1 活動箇所特定の地図を添付(必須) 別紙2 個別箇所ごとの活動行程を特定する写真(⑦)をまとめて添付 別紙3 その他補足資料

6.広報実績	<p><現地での事業実施中における広報実績></p> <ul style="list-style-type: none"> JPF 資金による購入車両・レンタル車両へのJPF ロゴ・WV ロゴの使用 事業実施村落におけるJPF ロゴ、WV ロゴ表示のサインボード設置 <p><団体WEB 上でのJPF 財源拠出事業の計上実績></p>
--------	---

7.事業効果	<p>主に3つの事業効果を挙げる事が出来る。</p> <p>はじめに、帰還後の生活の根幹となる水・衛生施設の整備が挙げられる。井戸・トイレの修復・設置により、テウオー県、ボリ県の計37,647人の住民が安全で十分な水や衛生的な衛生施設を利用できるようになった。</p> <p>次に、事業実施にあたっては、保健普及員よりトイレ・井戸設置・修復事業地の住民を対象とした井戸・トイレの衛生的な使用についての啓発トレーニングを継続的に行なった。事業終了以前にボリ県14村落、テウオー県40村落で行なった簡易調査より、健康と水との関連、健康とトイレの使用、環境衛生、設置・修復したトイレ・井戸の持続的な利用についての基礎的な知識を理解していることが分かった。事業終了後に、設置した井戸やトイレの使用状況を調査するためにテウオー県の事業地3ヶ所(Camp 3, Bumah, Gambia)を訪問したところ、井戸の受益者が、井戸を使用する前に髪が落ちないように頭を布で巻き、汚れたサンダルを脱いで水を汲んだり、WATSAN委員が井戸の使用時間を設定し、それ以外の時間には井戸に鍵をかけ、井戸の周りを清潔にしたりしているのを確認した。また、家族用トイレを設置したGambiaでは、住民がトイレを使用し、目付清潔に保っているのを確認した。</p> <p>更に、本事業ではCWT20人が参加し、事業実施(対象コミュニティや受益者選定、井戸・トイレの設置・修復、事業のモニタリングなど)にあたり、住民との橋渡し役を務めた。5ヵ月半に及んだ当事業実施を通じ、当事業へ不可欠な貢献をしたのみならず、積極的な事業参加を通して、地或住民への人道支援という社会的貢献の重要な役割を担うことが出来た。CWTに対しては、井戸やトイレの修復・設置時には現地トレーニングを行なったため、事業終了時には、井戸の暗渠設置、最終掘削(final digging)やトイレのコンクリート製足踏み台の製作技術を体得することが出来るようになったことが挙げられ、この経験が地或全体のキャパシティー向上に役立つと言える。</p>
--------	---

8.事業評価	<p>今回の事業は、セメントやセメント資材(足踏み台、井戸の暗渠など)などの事業資機材の調達遅延、劣悪な道路状況、事業実施に当初予想したよりも多くの時間を要した。</p> <p>当初は、WFPより食糧の支援を受け、修復・設置事業の対価として食糧の配布を計画していたが、WFPリベリア事務所の食糧パイプラインが大変厳しい状況であったため、WFPとの事業協力は、残念ながら行なうことが出来なかった。そのため、受益者の参加意欲とプロジェクト・スタッフのセンシタイゼーションを柱としてこの事業を推進することとなった。他のNGOが下請けに建設をすべて任せたり、労働力を提供したコミュニティに現金を支払ったりしたこと、コミュニティの自助努力意識が薄れていたため、自助努力に頼った当事業は困難ではあったが、故郷再建と復興に向けて心身共に自立をしようとするという意味では、これがかえって受益者のためになったといえる。</p> <p>特にCWTのメンバーはトイレや井戸建設の中心的な役割を果たし、今後のコミュニティ再建には欠かせない人材に育った。本事業を通じて、こういった自発性のある前向きな人材を育成できたことは、受益コミュニティの再建・開発にとって一助となるであろう。</p> <p>上述の通り、井戸・トイレの修復や設置時の過程でコミュニティの参画に重点を置くことにより、建築物だけでなく、住民同士の協力やつながりの強化など真の意味でのコミュニティ復興にも貢献したと考える。</p> <p>最後に、本事業はグレート・ケープ・マウント州の2県で実施したものであったが、当団体の調査では、少なくとも当該地域において9,057人の帰還民を確認した。井戸・トイレを設置・修復して安全で十分な水や衛生的な衛生施設を提供することにより、帰還民より水疾患や汚物混入が原因の疾患に罹患するという不安を取り除き、故郷で安心して再定住をする上で一助となったといえる。</p>
--------	--

9.事業終了時整理状況	※ 以下の項目を含め。
-------------	-------------

固定資産整理方針	購入固定資産の状況 ・固定資産・・・リベリア第3期事業で活用中。別紙9-1「固定資産明細」参照			
資器材過不足状況	※ 購入資器材と執行資器材の関係で未執行分がある場合、その顛末を記載。 掘削した井戸の深さが場所により異なったため使用暗渠数などの変更(井戸暗渠など)、井戸設置・修復、公共施設内トイレ(White wash, Cabonyl, steel rod, コンクリート・ブロック、釘など)に未執行分が生じた。そのため、未執行分については、自己財源に付け替えて処理をすることとしたい。			
執行体制状況	※当初承認人役との関係で整理 ※詳細設定状況について、別紙9-2「個別職務区分別人役措置状況表」を添付。			
	承認人役計	執行人役	増減(事由含む)	
本部人役(東京)	1人役	1人役	0人役	
現地人役計	71人役	46人役	25人役減	
国際スタッフ人役	1人役	1人役	0人役	
現地雇用人役	70人役	45人役	25人役減	
合計	72人役	47人役	25人役減	

上記の通り申請します。

日付：2005年8月12日
団体名：特定非営利活動法人「ワールド・ビジョン・ジャパン」
申請責任者：理事長 峯野瑞弘

